

# まちひとしごと

Vol. 43

北海道新聞社 倶知安支局

さくらい つばさ  
櫻井 翼 さん

## 人と地域に寄り添う記者に



北海道新聞社の記者となり2年目、今年4月に倶知安支局へ配属となった櫻井翼さん。

東京都の出身で、3歳から始めた水泳競技は中学生時に全国大会にも出場したほどで、高校卒業までは夜遅くまで水泳漬けの日々を送った。

その後は幼いころに読んだ漫画の影響で興味を持った歴史、特にアジア史について学びを深めたいと、都内の大学へ進学、大学院まで研究を続けた。

「大学院で研究を進め、研究職としての将来も考えましたが、歴史を研究していく中で、現代の世

の中で起こっている事柄を記録し伝えるという新聞記者の仕事に魅力を感じるようになりました」

もともと文章を書くのが好きだったこともあり、昨年、北海道新聞社に入社、札幌本社に配属された。

「入社して1年間は、警察担当として北海道内の多くの事件や事故を取材し、その一つ一つに関わる人がいるということ、そして、相手の気持ちに寄り添う取材の大切さを学びました」

本社での忙しい日々で、新聞記者として多くの経験を積んだ櫻井さんは、今年の4月、倶知安支局へ異動となる。以前から報道などで『ニセコ』の状況は見聞きしており、昨年の夏、休日に車で訪れた際には、羊蹄山の雄大さに感動したと同時に、スキー場周辺の異国のような街並みに驚いたと話す。

「異動が決まった時には、素晴らしい自然環境の下で暮らせるうれしさを感じた一方で、変化の著しいこの地域の現状を、しっかりと伝えられるかという不安も感じました」

この町に住み始めてから、何か倶知安らしいことをしたいと、

ロードバイクを始めた。町民となり、その目線で見える国際リゾートの町には、それだけでない魅力も感じているという。

「訪れる多くの外国人観光客が魅力と感じる、恵まれた自然がすぐ近くにある環境は、この町に住む私たちにとっても非常に魅力的で、国際リゾートとして日々発展を続ける一方で、いい意味で残る田舎の良さを感じることができません。このような場所は他にないのではないのでしょうか」

櫻井さんは新聞記者の仕事の魅力を、いろいろな人と出会うことができ、それぞれの考え方や生き方に触れられることと話す。

「支局に配属となってからは、自分が書いた記事への感想を直接聞けることが励みになっています。リゾートとして注目を集める町で、暮らす人々が町に誇りをもち、住みやすさを感じられるよう、地域に寄り添った記者でいたいと考えています」

※まちひとしごとは不定期連載です